



◆ 第 14 回大会（愛知大会）のお誘い

第 14 回大会が 2025 年 8 月 23 日(土)～24 日(日)、瀬戸 SOLAN 学園初等中等部において行われます。現在実行委員会を組織し、準備を進めています。

今回の大会テーマは、

「いま、デジタル教科書の進化・深化・真価を問い直す」です。

新津勝二先生（公益財団法人 教科書研究センター 事務局長・副館長）をお迎えした基調講演、パネルディスカッションの他、一般研究発表等を計画しています。

会場は瀬戸 SOLAN 学園初等中等部です。書籍『挑戦し続ける学校 SOLAN：自立・自律した学習者のための教育をつくる』でも有名な瀬戸 SOLAN 学園初等部中等部を会場とさせていただきます。会場である「学校」も訪れる価値あります。

（書籍に関するサイトはこちら：<https://www.sakura-sha.jp/info/978-4908983818/>）

本大会を通じて、デジタル教科書の“進化・深化・真価”を多角的に捉え直し、これからの学びの姿を皆さまとともに描いてまいります。詳細は大会ウェブサイトをご覧ください。

<https://aichi2025.js-dt.jp/>

多くの皆様のご参加、心よりお待ちしております！



第 14 回大会（愛知大会）実行委員長 稲田健実（福島県立相馬支援学校）

◆ 研究会実施報告

コラボ研究会（D-project 関東 sprout×日本デジタル教科書学会×横浜メディア研究会）

「NEXT GIGA の授業を考える

～創ろう！見つけよう！令和の授業のあり方を～」

日本デジタル教科書学会の研究会開催助成金の使用により、表記研究会を開催いたしましたので、以下のようにご報告申し上げます。

日 時:2025 年1月13日(祝日)10:30~15:40

会 場:横浜開港記念会館(横浜市中区本町1丁目6番地)

参加者:学会員 5名 一般参加者 75名

次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会による論点整理の時期が近づいてきました。現在の教育現場では、「資質・能力の育成」を目指す教育課程の実現や、GIGA スクール構想が掲げる「個別最適な学び」や「創造性を育む学び」の重要性が広く認識されつつあります。

しかし現実には、新たな教育環境への対応に追われる学校現場が多く、混乱や疲弊の声も聞こえています。各自治体、学校そして教師一人ひとりによって ICT 活用や授業実践に大きな差が生まれているのも事実です。

こうした状況をふまえ、今回、3つの教育研究団体が連携して研究会を企画しました。「令和の日本型学校教育」の理念について共通理解を深めるとともに、1人1台端末環境を活かした地道な授業研究を進めることをねらいにしました。研究団体間での運営ノウハウの共有や、メンバー同士の交流を通じて、これからの学校教育のビジョンを明確にし、それを各校・各地域へ広げていくための共通イメージを持つことを目指しました。

今回の研究会では、「NEXT GIGA の授業を考える ～創ろう!見つけよう!令和の授業のあり方を～」をテーマに、多様な企画を実施しました。

- **日本デジタル教科書学会** では、「隣の国はどうしている?『韓国のデジタル教科書視察』ミニ報告」を行い、韓国の最新事例をもとに、日本が目指すべきデジタル教科書の方向性について、参加者とともに議論を深めました。
- **横浜メディア教育研究会** は、「STEAM 教育の必要性を語る」と題し、探究的な学びの重要性和今後の展望について考察しました。
- **D-pro 関東 sprout** は、2名の若手実践者をお迎えし、授業改善事例を紹介していただきました。それをもとに参加型の授業改善ワークショップを行いました。

参加者は、それぞれの関心やニーズに合わせて企画に参加することができ、有意義な学びの機会となったようです。

今回の研究会は、次の世代の教育にしっかりと関心を持ち、皆で一緒に考える場を今後も構築していく必要があると実感できる機会となりました。

◆ 学会誌「日本デジタル教科書研究」への投稿募集

デジタル教科書研究の投稿論文を随時募集しています。一般論文、展望論文、実践論文の3つのカテゴリーがありますが、実践論文を積極的に評価しています。原著論文ほどの厳密さがなくても、実験段階の理論を実践的に応用した研究、新しいアイデアの実践的検証等を報告論文として積極的に評価します。もちろんアカデミックな一般論文、展望論文も歓迎します。

デジタル教科書研究の詳細については、学会ウェブサイトをご覧ください。

<https://js-dt.jp/2013/12/3354/>

論文の投稿、お待ちしております。

デジタル教科書学会編集委員長 山口大輔（流通経済大学附属柏中学校）

◆ 実践研究論文文化支援プロジェクトの参加者募集

研究委員会では、ICT活用教育の優れた実践の公開をサポートしています。「学術研究として実践を公開したいが、学会発表や論文執筆の方法がわからない」という方がいらっしゃれば、ぜひご連絡ください。学術研究の専門家である本学会所属の研究者が協力することで、学会発表や論文執筆を支援します。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

https://js-dt.jp/supprt_project-2/

デジタル教科書学会研究委員長 稲田健実（福島県立相馬支援学校）

◆ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト（http://js-dt.jp/research_support/）をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

◆ 研究会開催助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催支援、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に、研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイトをご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

(本学会サイトトップページ上部の“学会への申請一覧”の“研究会開催助成について”をご覧ください。申請書もこちらからダウンロードして頂くことができます)

(http://js-dt.jp/seminar_support/)

◆ 会員の声 Vol.4 (愛知淑徳大学心理学部 坂田陽子)

私は大学で発達心理学を教えています。全くデジタルとは関係ないように見えますが、私の研究のスタンスは「時代に流されない基礎研究」と「時代の流れを反映した応用研究」の二本立てです。特に後者では子どもとデジタルとの関係を研究しています。スマートフォンが普及し始めた 2014 年ごろ、小さい子どもにデジタルデバイスのコンテンツを見せてもいいかという論争が巻き起こりました。今では考えられませんが、当時は小さい子どもが泣き出した時にお母さんがスマートフォンの動画を子どもに見せて泣きやめると、それだけで「育児放棄」や「子ども虐待」だと周りの人から白い目で見られる時代でした。



そんな中、デジタルデバイスが子どもにどのような影響を与えているか、十分なエビデンスがありませんでした。そこで私はデジタル絵本が3歳～6歳の幼児に与える影響を研究し、投稿先を探していたところ、偶然ネット検索で出てきたのがこの「デジタル教科書学会」でした(この研究は、のちに『デジタル教科書研究第2巻』に掲載していただきました)。学会の立ち上げメンバーでもなければ、知り合いも一人もいない状況での参加でしたが、ちょうどデジタル教科書導入に向かう時期とも重なり非常にアクティブな学会でした。また現場の先生方とも交流でき、とても居心地がよくどっぷり浸かってしまいました。現在は微力ながら編集委員長を経て、理事および副会長を仰せつかっております。役員や会員の先生方の足を引っ張らないように、主に研究支援の面から学会を支えていければと思います。

◆ 会員専用ページのリニューアルについて(事務局より)

GW にリニューアルを行い、会員専用ページ上での会員情報の管理・更新を止めました。現在では、会費支払情報は確認できますが、住所・郵便番号・メールアドレスなどは一部だけが表示され、変更はフォームで受け付ける形になります。

一番の目的は、極力、個人情報をサーバー上に置かないことです。従来の個人情報を含む会員専用

ページは、サーバーの運用経験を有する役員の手によって、セキュリティ対策を施しながら 10 年以上問題なく運用されてきました。しかし、何かの手違いで一度でも個人情報漏洩したら、会員の皆さまに多大な迷惑をかけ、学会の信用を大きく損ないます。また、会員サービスの外注は相応の予算が毎月必要となり、年会費の大幅な増額が必須となります。

現行のシステムも、これまで通り高度な知識と運用経験を有する役員の手によって維持されますが、本リニューアルにより根本的なリスクが除去されます。代わりに、正確な会員情報をすぐに知ることができない、少し利便性の落ちるシステムになってしまいますが、持続可能な学会運営を実現するため、ご理解いただければ幸いです。

もし、ご不明点や改善すべき点にお気づきでしたら、事務局にお気軽にお問合せください。どうぞよろしくお願い致します。